

卒業生によるボランティア活動グループ“わ”会報
情報ギャラリー
 第40号

情報ギャラリー第40号
 発行日 2007年10月26日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 郷 肥三
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループ“わ”
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール group-wa@wa-net.jp

**グループ わ 10周年記念事業
 矢田神戸市長を迎えて盛大に挙行**



10周年記念式典来賓挨拶(矢田神戸市長)

700名以上が参加

特定非営利法人社会還元センターグループ わ の設立10周年記念式典が平成19年9月1日(土)午前10時から矢田神戸市長をはじめ多数のご来賓をお迎えして挙行されましたが実に700名を超える、かつて経験したことのない多数の参加者があり非常に盛り上がりました。(来賓名簿・参加者の内訳は右欄参照)

「一人でも多くの方に わの10年のあゆみと現状を理解いただき、今後の更なる飛躍を期す」という私たちが目指した「全員参加型の記念事業」のねらいがほぼ実現出来たとほっとしています。

随所に“わ”の存在感

一連の記念事業を通じて“わ”のボランティア活動の実態が広くPRされ、会員のみならず一般にグループ“わ”の存在感を印象付けること

が出来た点が一番の収穫でした。式典での体験発表では「神戸市から委託された環境未来館での環境教育ボランティア」の具体的体験談と決意が、また記念標語入選者表彰では、今後ボランティア活動に求められる熱い思い(指針)がそれぞれ端的に紹介されましたが、圧巻は第2部パフォーマンスでの全ボランティアグループの紹介パレードでした。73グループが一堂に集結し、各グループが実践している活動ぶりが一挙に紹介され喝采を受けました。また9月2日にはしあわせの村芝生広場やローンボール場で“わ”が実施している代表的な地域交流イベントをこうべ福祉振興協会との共催で開催し、多数の家族連れで賑わいました。

グループ“わ”への期待大

このように10周年記念事業では多種多様なボランティア活動を実

践しているグループ“わ”の存在感を内外に印象付けることができましたが今後グループ“わ”に寄せられる一般の期待はますます大きくなることが予想されます。記念事業実施を契機に、「とどけたい、あなたのもとへ、わの愛を」(10周年記念標語)をモットーに、更に精進を重ねボランティア活動に邁進したいと決意を新たにしました。

副理事長 美-10 加藤勇治記

ご来賓名簿

組織・団体名	役職・氏名
神戸市	矢田市長
神戸市 シルバ-カレッジ	今井学長
こうべ市民福祉振興協会	新野会長
神戸市保健福祉局	桜井局長
神戸市環境局	井上次長
神戸市区長会代表	松本東灘区長
神戸市教育委員会	小川教育長
神戸市社会福祉協議会	濱田常務理事

参加者総数	716名
来賓・招待客	41名
わ 会員	631名
非会員	44名

1期	30名	7期	62名
2期	14名	8期	59名
3期	24名	9期	78名
4期	31名	10期	92名
5期	39名	11期	115名
6期	65名	在校生	22名



郷理事長挨拶



郷理事長

皆さんおはようございます。そして、設立10周年おめでとうございます。本日はご多忙の中、神戸市長の矢田様をはじめ多くのご来賓の皆様にご出席いただきまして誠に有難うございます。

この10年間にわたって、多くの市の関係者の皆様のご尽力をはじめ、会員の皆様の神戸市内各地域での活躍によりまして、ここに10周年記念式典を挙行できますことは感謝の念一杯でございます。

現在もこうべ環境未来館の管理運営をはじめ数々のイベントや支援活動が活発に行われ、喜ばしいかぎりです。

さて、物質的豊かさを求めすぎて、自己中心的な競争社会になってしまった、今の日本がこのまま進んでいった良いのでしょうか？昔では考えられないような犯罪が増えております。人として生きるほんとの豊かさ、心の豊かさが忘れられているのではないのでしょうか。そして数十年後には、地球温暖化・異常気象による食糧難がくと予想されています。そのとき物不足の中でも自己中心的にならず、互いに助け合い、心温まるような社会が望まれます。また、物を大切に使い、無駄にしない、もったいないという心で生活することも必要になるでしょう。自分さえ良ければよいというエゴの心を捨て、周りのすべてを愛し、地球を愛して生活しなければならぬ時

代がすぐそこにやってきていることを、若い人達に知ってほしいのです。昔ながらの日本の心と、助け合いの社会を知っている私たちの世代が、若い人達にこれらのことを伝えなければなりません。

教育の道は、「家庭の教えで芽を出し」、「学校の教えで花が咲き」、「世間の教えで実がなる」といいます。グループわの実践活動の中で、この「世間の教え」として、子供たちに、心の豊かさ、思いやりの心、もったいないの心、地球を愛する心を伝えてゆこうではありませんか！

そのためにもまず、私たち自身が「老いの品格」を持って、「シャキッと生きる」ことが大切ではないでしょうか。子どもは親のうしろ姿を見て育つといいますが、まさに私たち自身もうしろ姿を見せているのです。このうしろ姿も品格のあるものにしなければなりません。公共の場で迷惑になるようなことは慎もうではありませんか。

このたび10周年記念事業の標語募集の最優秀作品に「とどけたいあなたのもとへ わの愛を」が選ばれました。今後の10年間も、グループわの活動を継続発展させるために、「とどけたいあなたのもとへ わの愛を」これをモットーに活動し、市民の皆様から感謝され、会員一人ひとりにとって人生の活力となりますことを切に願っております。

最後に青春の心に満ち溢れた熟年の人々が、このシルバーカレッジの丘から沸き立つように、神戸市内に巣立っていき、地域活動に参画されることを祈念します。



標語入選最優秀作品表彰

矢田神戸市長祝辞

1989年、しあわせの村が開村し1993年、その村内にシルバーカレッジが開学しました。その段階からボランティア活動をやっているという兆しが出てきて、それを形あるものとしてこのわのグループが作られました。2004年4月に、NPO法人化され、現在のような活動を次々に取組んで頂いているところでございます。

しあわせの村ができたのは、まさにまだ日本の国が高度経済成長で非常に豊かさを誇っておった時期でございました。近い将来必ず高齢者社会がやってくる、そしてまた、様々の地域でそういった方々との出会いを深めて行くためにも、まさにノーマライゼーションの施設が必要だということで、この村が完成したわけです。

この日本では例を見ないこう言った規模の施設ができたのはこれからの21世紀の超少子高齢社会を見据えてのことでございます。超少子高齢社会の中でこれから大きな課題となってくるであろう様々な状況に対して、神戸市では様々な分野で、きめの細かい取り組みをやっていかなければと思っているところでございます。

このグループわの事業ひとつ取り上げましても、本当に幅広くいろんな活動に取り組んで頂いておりますが、今後更に活動を増やしてやっていこうということで今学校支援活動にも取り組んで頂いているところでございます。この学校支援は、最近発達障害の子どもたちが増えておまして、この発達障害児をクラスの中で支援して行く事がなければ、中々全校の授業がうまく行かない状況でございます。発達障害児を実際のクラス運営の中で皆様方に支えを頂けることが、クラス運営ひいては、学校教育に大きく貢献をして頂いていることとなります。(次のページに続く)



矢田立郎神戸市長

(前ページから続く)

そういった意味では、本当に皆様方の一つ一つの活動が、この神戸全体の市民の暮らしあるいはこういった子供たちの発育にとって非常に大きな役割を果たして頂いている事でございます。

また、こども家庭センターにおきましては、休日夜間の電話相談に従事して頂いております。虐待の問題さらには発達障害等々の様々な事柄を含めて家庭の中での出来事に対して、近隣の方からの通報とか、当事者のお母さんお父さんから様々の相談が寄せられますがこれに対して、逐一相談に乗って頂いて対応して頂いておるところでございます。通常の皆さんがお休みになっている時に、そういう活動に取り組んで頂きます事は、とりもなおさず大きなこの社会に対する貢献であろうと私は感じています。この事業に対して参加して頂いたわの皆様方の活動に対しましてお礼申し上げます次第でございます。

また最近の環境問題への取り組みということでは、先ほどお話のございましたまさに『もったいない』という事柄を多くの人たちが意識として共有しながら、そしてまた次の世代を担う子供たちに、そういう事柄が伝わって行くことが重要だということで、こうべ環境未来館でのお仕事を引き受けていただいた訳でございます。皆様方の熱意そのものがこの子供たちに通じて行くことで大きな成果を挙げていると感じています。

シルバーカレッジには、グループわとは別に、さまざまなボランティア活動に取り組んでいただいている在校生の皆さんもいらっしゃいますし、またこの3年間の授業の中で、それぞれに同好会などをおつくりになりながらその社会貢献に励んでいる方もいらっしゃいます。グループわを中心として皆さん方の活動は、いづれも地域に還元して頂ける様な活動がベースとなっています。この社会が今後ますます複雑化し多様化していく中で、こうした活動を担う皆さん方には期待申し上げる点が多々在るわけでございます。

地域還元を目指すこうした活動は本来、市民、行政さらに地域が一体となってやっていくことが重要でございますが、それぞれの役割を持ちながらこれに対応していくことが大変重要な時期を迎えています。何度も申し上げますけれどもこうした活動は次の世代のたち子供達に対する私達今生きる人間の責任の一つではないかと思っているところでございます。

その意味で先ほどお話のあった点はお聞きしていただいて本当に今シルバーカレッジでそういった精神が充満しているのだと感じさせてくださいました。グループわのますますの発展を祈念致しますとともに皆様方が一つ一つの事象に対しまして真剣にお取り組みいただいていますことに感謝申し上げます今日の10周年のお祝いの言葉にさせていただきたいと思えます。本当に有難うございました。おめでとうございました。

ボランティア活動体験発表

生環8-環 西阪 順三

私はこの3年余り、西区にあるこうべ環境未来館のコーディネーターとして、来館者の皆さんに「美しい地球環境を守るためにはどうしたらよいか」について解説しています。

平成16年4月、諸先輩達のご努力でこのグループわがNPO法人の認可を受けたのをきっかけに、

神戸市からこの年の6月に完成したばかりの「こうべ環境未来館」の管理運営の委託を受けました。私はシルバーカレッジを卒業した年でもあり、スタッフ20名と共にオープン前の1週間、神戸市のごみの現状について猛勉強しました。今後のグループわの大黒柱となる委託事業だけに絶対に失敗は許されません。

当時の赤司理事長、ファシリテーターの中島洋吉さんらの指導の下、市民の方々の応援もあって、未来館横に立派なビオトープを完成させました。池に放流するメダカは近くの小川から採ってきたり、植木なども貰ってほとんど費用をかけずに出来ました。神戸市がこの年の11月から採用した「ごみの6分別」をPRするためのゲームを考案したり、遠くで見学に来れない東灘区や灘区の児童たちのために現地に出向いて「飛び出すエコスクール」を開催するなど、みんなで工夫を凝らしました。お陰さまで大雨や台風の日も休むことなく、3年余りで来館者は4万5000人を越えました。市内の小、中学生はじめ婦人会、自治会の団体客が多く、北海道、九州、四国方面からの見学者や、昨年からは中国の上海市や、天津市から学生たちが環境問題の勉強に訪れています。小学生の感想文には「お母さんにごみの6分別を教えてあげる」と書かれていたり、自治会の役員さんは「いい勉強になった。一人でも多くの市民が見学されることを願っています」と励ましを頂きます。他都市の見学者からは「神戸市のごみの分別は少過ぎる」と指摘される事もありますが、その都度神戸市の事情を説明して理解を得ています。

今年は3年目の契約更改の年に当たり、過去の運営実績についての審査を受けたのですが、学識経験者から高い評価を受け、引き続き4年間の管理運営の契約を頂きました。今後、グループわを支える中心事業として、皆さま方の期待に応えるよう努力してまいります。

ここで話題を変えて恐縮ですが、ことし6月にドイツで開かれたサミット
(次のページに続く)



体験発表する西阪氏

(前ページから続く)

で、深刻化する地球温暖化の問題が取り上げられ、ヨーロッパ諸国とカナダ、日本が「2050年までに地球規模での温室効果ガスの排出量を50%に減らす」と宣言をしましたが、全会一致とはゆきませんでした。このため来年8月、北海道で開かれるサミットに先駆けて、5月25日から3日間、神戸市において世界の環境大臣会合が開かれます。この会議には、サミット加盟8カ国をはじめ中国、インド、ブラジル、南アフリカの代表者も参加して新たな環境対策が話し合われます。

「環境都市、神戸」を全世界にアピールする絶好の機会であります。私たちのグループ わには環境部会や国際部会、文化部会などがあり、国際会議に付随するイベントや通訳、ガイドのほか、同伴されるご婦人たちに日本の伝統文化の紹介など何らかのお手伝いできると考えています。

ここにご臨席の矢田神戸市長にお願いします。環境大臣会合の打ち合わせの際には、是非ともグループわをご紹介いただき、私たちに活躍の場を与えてくださるよう提案申し上げます。

最後に、私たちは神戸市シルバーカレッジの建学の精神である「再び学んで 他のために」をモットーにボランティア活動に取り組んでおりますが、この3年余りの私の経験から得た実感は、ボランティアは他のためにするのではなく、自分を磨く

ためにあると言う事を痛切に感じました。どうぞご出席の皆さん方もこれからの人生を有意義に過ごすため、努力を惜しまず頑張ろうではありませんか。

つたない発表でしたが、ご静聴有難うございました。

記念演奏



独唱する松本薫平氏

設立10周年記念式典では、関西きっての若手テノール歌手として有名な松本薫平氏(関西二期会会員)をお招きして、迫力満点の独唱が披露されました。演目はナポリ民謡でおなじみの“オー・ソーレ・ミーオ”、スケートの荒川選手のイナバウワーで耳新しい オペラ「トゥーランドット」より“誰も寝てはならない”の2曲を藤江圭子さんのピアノ伴奏で音量豊かな素晴らしいテノールを聞かせて頂きました。

その後指揮小埜直氏(音文6期)ピアノ伴奏藤江さんで、会場の全員が起立して、校歌を合唱して式典が締めくくられました。

パフォーマンス



フルーツフラワーパーク案内

全ボランティアグループ73グループが一堂に会し、68チームがパレードで、順次チームごとにプラカードを掲げ舞台上上がり、各自の活動を一言でPRし、また6チームが日頃、施設訪問での演技を披露し、各グループの活動ぶりを紹介して、皆さんの大拍手を受けました。



一寸奉仕玉すだれ

わいわいストリート

記念事業として、“しあわせの村本部(こうべ市民福祉振興協会)”と共催して9月2日村内の芝生広場や、ローンボール場はじめ各所で市民との交流を図るイベントを実施した。

- 自然遊び(里山探検、ピオトープ探検、野鳥観察など)
- むかし遊び(竹馬、こま回し、折り紙、折染めなど)
- 木工工作
- ニュースポーツ(スカイクロス、ローンボールなど)
- 車椅子体験、グリーンプラの展示など



ピオトープ探検



スカイクロス

10周年記念式典に参加して (区会長)

東灘区会長 国-7 白岩信義

わ設立20周年記念行事の開催通知、2017年の或る日、わ本部事務局から「某ホテルにて10周年記念行事に出席された方々皆様をご招待」とのうれしい知らせ。わも設立20年を迎え会員数も3000人余、その活動も神戸市民の中に深く根を下ろしその存在感を植えているとのこと、財政的にも我々を招待とは豊かになったものと思われる。

そう言えば10周年記念行事の当時のことが思い出される。わが東灘区はぱふぉーまんすとしてKSCホールで、作詞廣川幾雄(生4)うはらの郷(わ東灘の歌)を作曲者小埜直(音6)の指揮のもと10数人で高らかに歌い上げた。



せっかく皆の前で歌を披露するのに、せめて上だけでも全員揃いの服装でと、歌詞の“清き流れの住吉川 うはらの郷は緑濃く”に模したスカイブルーのTシャツと藤井潤子副会長(音5)の発案で決まり、歌の特訓も実り、何とか当日満足して歌え満場の拍手を受けたことが懐かしく思い出される。早速20周年記念行事出席の返事を、夢の覚めぬまに出して置く事とする。

グループわのますますの発展を祈りながら!!



灘区会長 国8 福田 望

去る9月1~2日グループわが誕生して10周年の節目を迎えて記念行事がありました。本部を始め、各部会、各区会、ボランティアグループ等から実行委を立ち上げ、式典、展示、パフォーマンス、わいわいストリートと2日間にわたってのイベントを無事こなし、大成功を収めました。改めておめでとうのご挨拶を申し上げます。

さて、灘区会としては、パフォーマンス、パレード出演で、1分間の持ちタイムでの紹介が不十分だったので、この欄を借りて再現しますと下記のとおりです。

神戸市でパンダが住んでいる唯一の街は灘!! 酒なら灘の生一本!! 摩耶・六甲の連峰から流れる清流の都賀川の美化活動に汗を流しています。灘区会一同

これを街角のビルの電光ニュースのように、巻紙に大書して段ボール箱から引っ張り出すつもりが、引っ掛かって失敗でした。一番手に出演した東灘区会は『うはらの郷』という区会の歌をコーラス部が合唱してカッコ良かっただけに余計にあせりました。なにぶん6ブロック約80グループの出演で、裏地パフォーマンス部長は手を負傷しての総監督でプラカード作りからリハーサル~本番まで大変だったでしょう。楽しい思い出を共有できたことを有難く思っています。皆様本当にお疲れ様でした。



中央区会長 福-6 五味正昭

俗に10年一区切りといいますが、ここ数年の委託事業の拡大と、それに伴うグループわの認知度の高まりから、来賓者の方々も、神戸市長をはじめとして、関係各位も代表、局長クラスの出席もあり、記念行事は大きな成功を収めたのではないかと思います。

第1部の記念式典は通常のパターンですが、第2部の参加者の目に訴えるパフォーマンスのグループ紹介パレードは、グループわの内容を把握していただく上で、非常に効果的だったように感じました。



わ役員はじめ、記念事業実行委員のかたがた並々ならぬご努力に、深く感謝いたします。有難うございました。

10周年以後は、委託事業の増加が想定され、若手のボランティア活動要員の確保が急務となって来でしょう。中央区で見ると、現在の主力は3期~10期生の半数15名であり、大半が70歳を超えております。今以上の拡大は望めません。今年卒業の11期生は8名おりますが、実働は1名で他派?です。これらの方々の参加意欲の活性化を如何するべきか考察を要します。現在41名中、区会行事の稼動人員は16名です。

いずれにせよ10周年以降は、若手会員の実働要員としての活性化を、どう図るかが急務の課題です。

10周年記念式典に参加して (区会長)

長田区会長 生-7 松本治司

10年前と言えば阪神淡路大震災で各地に仮設住宅が建てられ、神戸の町は崩壊した瓦礫の山が各地で見られた。そんな難しい時期に充分な予算も無く、またボランティア経験の乏しい人達が「KSCの建学精神」の元に、必死になって活躍していた姿を想像すると頭が下がります。

9月1日の10周年記念行事には、「何人来てくれるか?」という心配をよそにKSCのホールは超満員となり“わ”が始まって以来という最高の集客で大成功裏に終了した。

この10周年記念事業を実施するについて昨年より委員会を立ち上げ毎月委員会を開催してきた。私は、KSCロビーでの展示担当となった。広いロビーをどう使うか、また展示品をどうするかと悩んだ。しかし、皆さんからの素晴らしいアイデアを戴き、また会員のご協力により無事終了することができました。有難うございました。

終わってからゆっくり「丘によって十年」を読んだ。空になった金庫を見て悩んだ事務局の飯井さん、暗中模索の内に“わ”の基礎を確立していく歴代の会長さんのご苦勞を思うと胸が詰まる。

“わ”はこれからも長く存続するでしょう。しかし高齢社会の後継者の育成が急務かもしれない。



ボランティア活動標語 優秀作
ボランティアやってよかった
あの笑顔

北区会長 国 6 柳田栄一



北区会として最初の取組みは「プラカード・パレード」で効果のあるアピールはどう表現すればよいかを検討して、目下、活動にパワー全開の「花山梅林会」活動に的を絞りました。徳原委員のアイデアと工夫で一味違う「コマーシャル・プラカード」が出来ました。会場でご覧になった皆さんにはどの様に目にとまりましたでしょうか。又、区会として一人出演計画を北区会の会員数を思わせる「大勢の参加」の気持で5名参加に急遽変更して、頭にはバンダナを巻き、手には軍手をはき、自然の多い北区を意識した坂東委員提案の「人と自然に優しいボランティア」の標語カードを手にとって、メインカードと補助カードの反転動作を笛の合図でタイミングを合わせ、2転、3転とカード動作を行い、1分間のアピールがあったと言う間に終了しました。自己評価ではありませんが「良くやれた」「成功」と評価しても良いでしょう。皆さんにはどの様に受け止められたでしょうか。これからも「人と自然に優しいボランティア活動」を会員と共に取り組みたいと考えています。



ボランティア活動標語 優秀作
経験と知識が“わ”となり
他のために

西区会長 生 10 国分東洋彦

700余名の参加の下、わ 設立10周年記念式典が開催され、粛々とした中にボランティアの精神が表現された盛大な会でありました。ここからお祝い申し上げますとともに会員の一人として参加できました事を嬉しく思う次第です。ボランティアグループのパフォーマンスではこんなに沢山の人が社会と係わりあっているという事が多くのご来賓の方やご来場の方々にご理解頂けた事は意義深い。私自身も改めて再認識させられました。



私ごとで恐縮ですが、定年になり神戸に終の棲家を定め東京から移り来まして早くも5年。神戸を知るためKSCに入学、これが丁度10期生そして奇しくも“わ”設立10周年に出会う。「神戸」、「KSC」、「わ」との繋がりが何か私の人生に大きな節目を与えてくれている縁を感じる一日でした。

このような大きなイベント、行事に参加する時、いつも思う事があります。それは裏方の秘められた努力の大きさです。表舞台が華やかであればあるほど、裏でそれを支えている人の支援には大きなご苦勞があった事でしょう。これを忘れてはなるまい。“わ”の基本精神の「他のために」がベースにあるとは言え、感謝したい。有難うございました。

ボランティア活動標語 優秀作
経験と知識が“わ”となり
他のために

10周年記念式典に参加して (部会長)

福祉部会長

福-10 横井幸雄

本年度より福祉部会長を担当する事になって、何もわからない状況で記念行事に取組んだが、無事に盛況に終わって安堵した気持ちが正直なところです。

これも福祉部会の各グループの皆さんの協力のおかげと感謝の気持ちでいる。

記念式典での各グループのパレードは“わ”の実力と多岐の活動を示す機会となった事は喜ばしい気持ちでいる。参加したグループ数は73グループという多さを誇示出来たが、福祉部会の参加数は6グループと少ないのは残念に思うと共に気がかりな気持ちでいる。

福祉部会の活動は他のグループと比較して地味な事は仕方ないとしても、もう少し主流であるべき歴史が刻まれていて良いと思うのだが？何故ならシルバーカレッジもグループ“わ”も福祉が主体になっていると聞いている。今井学長も機会のある毎に、カレッジの学生、卒業生に福祉文化の担い手になる事を説かれて、期待をされている。

この精神を忘れずに“わ”の活動、部会の活動を行うように、あらためて思うと共に責任の重さを感じた次第である。

福祉とは一言でいえば皆が幸せになる事である。

だれもが人間らしく、幸せに生きて行く為には、言葉、心、歌舞音曲の3Kがバランス良くある事が必要であると聞いた。これが福祉の心であると思う。

10周年の機会に、この精神を認識して新たな発展を期待したいと思った。

国際部会長

国-10 土井昭政

“わ”に入会、国際部会員となったが、1年間ほとんど部会にも顔を出さず、活動もしていなかった。が、しかし突然平成19年度の部会長を仰せつかり、最初の大仕事が10周年記念行事となった。

国際部会としては、すでに9月1日の記念式典でパレード参加、2日のイベントで外国人とのローンボール大会が決定されていた。当初どのようにパレードが実施され、どのようにローンボールに参加してくれる外国人を招聘するか、等々判らないことが多くあり、少々戸惑いがあった。

だが実際は、部員先輩の助言や協力、また展示・パフォーマンス部会長と地区交流・体験事業部会長の指導による数回の打ち合わせ会議で具体的な内容が明確になり、結果として本番では部員の協力で概ね上手く実施することができた。

パレード用グループ表示パネルは、小・中学生時代の工作を思い出し、多くの関係者と楽しく作ることができた。そして、パレードで国際部会をアピールできたと思う。ローンボール参加者の外国人招聘では、部員の方々のお世話で多くの参加者があり、大会は楽しいものとなった

10周年記念行事の式典への来賓者多数、パレードでの各部会と数多くのグループの存在、そしてイベントでの多くの子供や人々との交流は、“わ”にとって大変有意義なアピールの機会であったと思う。時々是小規模な形でこのような行事を開催し、“わ”の行動力をアピールする機会を作ったらなと思った次第である。



環境部会長

生-7 西隈勝利

いささか時間を取られ、いささかのストレスを感じながらも、実行委員の一人として、そのとき、その場に立つ事が出来たことの感慨を今味わっています。

と同時にこの事業を行なったことにより“わ”に寄せられた期待は大きくなり、今まで以上の社会的責任と義務が生じたのではないのでしょうか。

となれば諸先輩が築かれた10年の重みを糧とし礎としてわの設立理念、その原点に立ち返った上での、わの在り方、現在行なっている活動の評価、その上に現在の社会情勢、待たなしの環境問題等社会の変化に対応しつつ社会からの期待や要請にこたえる、今まで以上の組織としての力が求められてくると思われまます。

しかしながら“わ”はその生い立ちからしても多方面にわたって対応できる人材の宝庫であり、わの理念を体現しながら第2の青春を謳歌、情熱を保持している人の集団で、社会の期待と要求に応えられる十分な潜在力を有していると確信しています。10年を契機として今後、より広く、より深く、よりきめ細かく、より明るく、そしてより楽しい人々の「わ」の「わ」になるであろうことを念じつつ、「わ10周年雑感」とします。



10 周年記念式典に参加して (部会長)

文化部会長

食 - 5 裏地彦允

9月1日午前11時。第2部のパレードとパフォーマンスの始まりです。20人のスタッフがそれぞれの持場で準備完了。司会者の開会宣言で、さあ、いよいよここから80グループのパレードが始まりました。まず、男声合唱団の歌声でのオープニングパレードでスタートしました。続いて、舞台でのパレードがプラカードを高々と掲げて、司会者のグループ紹介でスムーズに進行しています。担当者として今は何事もなく予定通りに終了する事を見守るばかりです。

思えば、6月からこの日までの3ヶ月、本部、各部会長、文化部会で構成した20数名のスタッフが企画、検討してきた結果の総決算の日となりました。

実施に当たっての大きな課題は、100分間という時間内で80グループのパフォーマンスを如何にスムーズに行うか、そしてグループ紹介をどのようにアピールするのかの点でありました。その為にプラカード板の選定からクラブ名の印刷、見易さ等検討を重ねプラカード80枚が8月に入って完成。そして各グループから提出さ

れた紹介原稿の編集と司会者による読み合わせ等で取り合えずの準備が整いましたが、計算上時間オーバーとなりどうすれば時間内で行なえるかが、大きな課題として残りました。その為にはスムーズなパレードの進行方法を検討し、8月21日のリハーサルで確認する事になりました。その結果、何とか時間内に収める事が確認され大きな山を越したことになりました。又リハーサルでは趣向を凝らしたグループに刺激を受け、他のグループでも趣向を凝らすという思わぬ効果が生まれました。さらに各グループの積極的な参加意欲を強く感じ、当日の成功を確信できたのは嬉しい事でした。

そして当日、司会者の紹介アナウンスの中“明るく、楽しく、元気よく”パレードが進行しています。ちょっとしたアクシデントがありましたが、12時40分予定通り無事終了。ちなみに、パフォーマンスに参加された方は532名でした。参加された皆様、スタッフの皆様ご苦労様でした。



10周年記念誌発行に際し、折角ご投稿頂きながら掲載できなかった田坪氏のお言葉をご紹介させていただきます。

グループわ

設立10周年を祝して
(財)ひょうごこども家庭福祉財団

課長 田坪 直

グループわ 設立10周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

「きょう一日、貧しい人や病んでいる人を助けるために、私の手をお望みでしたら、きょう、わたしのこの手をお使いください。」これはマザー・テレサが語った言葉です。

私どもでは、毎年秋に、障害のある子どもたちの福祉活動をすすめるための『こくべ子どもの未来応援バザー』を開催しており、グループ“わ”の皆さまに、バザーの準備や当日の販売にお手伝い頂き、本当に有難いことと深く感謝いたしております。

最初皆さまとお目にかかったのは、今から5年前の2002年でした。以来、今秋で6回目のバザーを迎えようとしておりますが、実は私個人としても、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。私より少し人生の先輩の皆さまに、お手伝いいただくだけでなく、より良いバザーとするために、知恵やアイデアを出して頂いたり、普段もいろいろな活動のお話を聞かせて頂けるからです。

社会を良くするために、社会で困っている人たちのために活動されている皆様のお話をお聞きして、浮かんだのが冒頭のマザー・テレサの言葉です。最近、学校などで先生や友だちから「理解され難い存在」として置き去りにされがちなLDやADHDといった軽度発達障害をもつ子どもたちへの支援が強く望まれて
(次のページに続く)

須磨イルいきいき健やかフェスタ

保健士に健康体操を教えてもらおう お話「きちんと食べる食生活」
むかし遊びをしよう 紙ひこうき、紙トンボ、こま回し けんだま、
お手玉、ぶんぶんごま、さらまわし、動物風船など

日時 2007年11月17日午後1時~3時
場所 須磨一の谷プラザ 参加費 無料(申込み先着順)
主催 NPO法人社会還元センターグループわ
共催 須磨区役所
後援 (財)長寿社会開発センター
申込み方法 参加者の名前、年齢、住所、電話番号をはがきかFAXで
あて先 651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内
NPO法人グループわ 1117係 FAX 078-743-3830
お問い合わせ NPO法人グループわ 078-743-8101

(前ページから続く)

います。人間にとって「一人ぼっちで、誰からも必要とされず、愛されていない」子とは、この上ない苦しみですが、私どもでは障害のある子どもたちが将来にわたって、社会の一員として生活できるように、療育面からのサポートを中心に、これからも支援活動を行なって行きたいと思えます。

貴グループの今後ますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

グループ わ 創設10周年に寄せて
(音文6期)湯口 澄比古

我々がカレッジ内に、グループわを結成してはや十年、月日と言う「百代の過客」(松尾芭蕉・奥の細道)の走り去るのが早いものよ、と言いたくなる。よくぞ各期の卒業生方も見事に組織化し発展させてきて頂いて、もう10年が来ました。

高齢化社会の到来が叫ばれて久しい。高齢者について語られるとき、いつもその問題点として語られていることは、介護、痴呆、寝たきり、生活保護と高齢者が無作為に纏められてめられて面倒を見て貰う、つまり扶養されていると言うイメージで語られている。

しかし本当にそうでしょうか。私たちは家庭に在っては家長として、地域にあっては長老として、その蓄えられた経験と叡智に対し、尊敬と敬慕の念を持って位置づけられているべしとの信念は未だ失ってはいないつもりだ。少なくとも我がグループわにある皆さん方はこのプライドは失っていない者達の集団である。そう思いませんか諸兄諸姉。

だからこそ再び学んで余生を少しでも社会の役に立つ存在となりたい、と思う人材の集い学ぶ学園、そして其処におのずと、社会還元センターわが生まれて来たのです。NPO法(特定非営利活動促進法)を政府が制定する前から、

我々はこの活動を始め、広く展開してきたことに誇りを持つてはありませんか。たしかに迫りくる人生の終焉は、私達に切ない別離の思いや、何かを遣り残したことへの未練に似た焦りを感じさせる。だからこそ老人と言う枠組みに囲い込まれることなく余生としてではなく、継続する人生として、第二の青春を夢を持って堂々と、残りの人生を豊かに充実させたい。そう願うのが今の我々の人生観であり、人生論でありたい。我々は昭和の激動の嵐を生き抜いて新世紀を迎えた。その「昭和人」としての気骨、気概。世界に日本を主張し、世界と戦い、敗れても奮起し日本を世界第二の経済大国とした「昭和」に生きた我々だ。

大和民族の皇紀二千六百年の悠久の歴史に名を留める「昭和時代」の青年達よ、二十一世紀に残され日々を、与えられた寿命を、有意義に全うしようではありませんか。そして、そのために志を立て入学してきた我々。見学の精神“ We are study again and its for another peoples ” 再び学んで他の為に」のもと、社会還元センターグループわの結成十周年を皆さんと心から祝いたいと思えます。これからも優れた人材が加入してきて、ますます組織内容の充実発展を期待して、お祝いの文を終わります。



季節の草花 ⑩

ナンバンギセル

生 8-文 久保 知彦

ハマウツボ科の一年生の寄生植物で、ススキ、サトウキビ、ミョウガなどの根に寄生する。せいぜい15センチ位の直立した茎に横向きに向す赤い色の花が咲く。

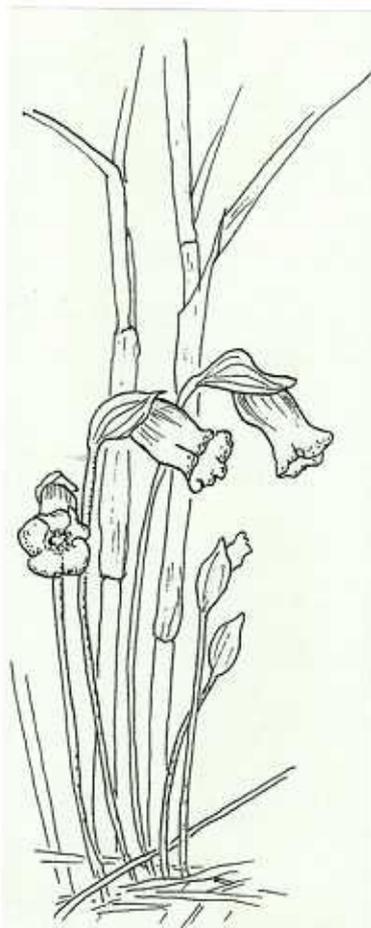
私がこの花にお目にかかったのは、カレッジ1年のとき、青垣町での学習の際だった。名前の由来は、その形がパイプ(西洋の煙管:南蛮人の煙管)に似ているからだという。

万葉集に

「道の辺の 尾花がもとの思い草

今さらになど ものか思はん」と歌われているようで、この「思い草」はナンバンギセルのことだといわれている。ススキの陰で慎ましく、小首を傾けてものを思っている佳人のイメージでしょうか。

葉緑体を持たないで、他の植物に寄生したり、腐葉土に生える植物はいくつもあるが、どれも小さくて目立たないものが多い。キンリョウソウもその一つで、白山のふもとの山中でお目にかかったときは、不思議な姿に感動した記憶がある。



子どもたちの学習支援「第2回登録者の集い」

学校現場で「特別支援教育」の要請急増！

副理事長 加藤 勇治

さる8月8日開催の「平成19年度第2回“登録者のつどい”」では地域交流の一環としての学習支援活動に関心の高い現役学生十数名も参加、学習支援活動のノウハウについて熱心な質疑があり盛り上がりました。学習支援委員会中沢委員長から、冒頭「本年度は現在市内51の小学校から学習支援要請があり、30校については支援が決まっているが、未支援校は21校にのぼっている。未支援校はいずれも特別支援教育を要請しており、特別支援教育への対応が急務である。」との報告がありました。次いで特別支援教育を実践されている川上弘一氏(福祉・12期)と上川道子氏(食文・10期)の両氏から、後掲の体験発表がありました。いかに支援校で喜ばれ、感謝されているか、また支援者自身もいかに教えられ元気づけられているかが生々しく語られ、示唆に富んだ励まされる体験談でした。

(注)特別支援教育とは、障害のある児童の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行なうものです。その教育補助をするということですから、一人一人の障害児との出会いを大切に、児童が安心して、生活を送り、学習に取り組める環境を整えて行くお手伝いをする事です。

学習支援活動に参加しませんか！

平成19年度に入り、神戸市内51の小学校から支援要請を受け、沢山の支援者が活動を開始していただきました。しかし、まだ支援に入れないでいる学校が、20校残っています。子どもたちに寄り添う活動を始めてみませんか。まだ支援できないでいる要請校は、次のとおりです。

【特別支援教育の補助要請校】

- (東灘区) 御影小、東灘小
- (灘区) 西灘小、西郷小、高羽小
- (中央区) 宮本小、湊小
- (兵庫区) 平野小、菊水小
- (北区) 鹿の子台小、有野東小
有野小、南五葉小
- (長田区) 駒ヶ林小
- (須磨区) 菅の台小、東落合小、
高倉台小
- (垂水区) 舞子小、多門南小
- (西区) 糀台小

*支援を考えてみようという方、やってみようと思う方は取り敢えず、次の照会先に相談してみてください。

【支援についての照会先】

グループわ 学習支援委員会
中沢保夫・加藤勇治・増金み子
電話：078-743-8101
FAX：078-743-3830
特別支援を行っている仲間と一緒に体験してみませんか！

渡辺 寛治(国際・10期)
特別支援の実情が掴めず二の足を踏んでいる方のために、「百聞は一見に如かず」現場で体験ボランティアに参加されては如何でしょうか！希望者は上記に連絡ください。

学習支援活動の2年間

川上 弘一(福祉・12期)



平成17年9月から自宅近くの本山第3小学校で学習支援活動をスタートしました。初めは、担任の先生と連携がうまくいかず、教室の後ろでクラスの様子を見ているだけといったこともありました。

平成18年3月の春休みに校長先生から「自分も複数教員として授業に参加した頃、ただボーと立っていた

こともあったからよくわかる。社会経験豊かな方が教室にいてもらうだけで有難い。」との話があって、以降わたしの役割が分からない時は校長のいわれた「いるだけでも良いのだ」という言葉を噛み締めて来ました。平成18年4月から主として2年生と1年生のクラスのサポートになりましたが、2学期にこれまでと変わったことが2つありました。1つは2年のあるクラスの子どもが「先生給食一緒に食べないの」といってくれ、それがきっかけで、クラスで子どもと一緒に給食をとるようになったことです。もう1つは「2年生全体での生活の授業で話をしてほしい」と言われ、私が毎朝登っている近くの山(保久良山といいます)について話したことです。45分間退屈させないように写真を50枚ほど用意して出来るだけ子どもと会話しました。質問も沢山で、後から4クラスの子どもからお礼の手紙も貰いました。平成19年4月から私への連絡はなかよし学級の先生が担当されることになり、特定の子どもを対象に特別支援教育を手伝っています。授業についていけない子ども、45分が長すぎる子ども、さまざまです。私はそっとその子どものそばでヒントを与えたりして勉強をサポートしておりますが、受け入れてくれる子ども、まだ受け入れてくれない子どもいろいろです。今振り返ってみて

1. 先生は本当に真剣に教育に当たっておられ、教育とは本当に大変な仕事だということ。
2. どんな子どもも頑張っているとところを見つけてエールを送れば更に頑張るということ。(学校では朝と休み時間、グラウンドで子ども達が鉄棒、吊り輪、一輪車、フラフープ・・・ありとあらゆることに挑戦している様子に出会います。ちょっと立ち止まってその子の頑張りをしているだけで、その子はそれに気づき、一層頑張ります。)以上の2点を改めて実感しました。この機会が与えられたことだけで
(次のページに続く)

(前ページから続く)
カレッジに入学した甲斐があった。出来れば卒業後もお世話になりたいと思っている毎日です。

小学校のお手伝い

上川 道子(食文・10期)



グループ“わ”から平成18年4月から和田岬小学校「特殊学校」へ毎週金曜日午前中お手伝いに行っ

ています。私は教員免許を持っていませんので、当初どんなことをするのか心配していましたが、連絡を受け「特殊学級ひまわりタンポポ教室」にてお世話することになりました。児童は1年生から6年生まで男女5人が同じ教室で男女2人の先生の指導で勉強しています。

私は常に大きな声で明るく生徒さんに声をかけ、一日も早く親しい関係が作れるよう努力し、例えば国語の時間は日記を書くことから始まりなかなか書けない児童には側に寄り添い朝食はなにを食べたのと問いかけ、書かすことの動機付け等々お手伝いをしています。当初障害があるから可哀想と思っていたのですが、先生は健常者と同じ気持ちで指導されている姿を見、随分勉強になりました。先生のご苦勞を目の当たりで拝見し大変な職業に吃驚し尊敬しました。

今年3月卒業式に参列し、卒業生一人一人希望を述べ、特殊学級の児童さんも立派に述べました。卒業生全員がボランティアの上川さん有難うとお礼の言葉を頂き涙が出てきました。中学生になって頑張ると校庭で握手をして見送りました。

これからも児童さんと嬉しい出会いがあり、また悲しい別れがあり、感動と元気を頂きながら金曜日のお手伝いを楽しみにしている今日この頃です。

7月4日 長坂小学校 『日本の伝統文化』講座

大正琴を小学生とともに 福祉11-文 前田仁子



7月4日は久しぶりに心から感動した一日でした。

子ども学習支援活動で長坂小学校6年生に大正琴の指導のお手伝いをしました。私には初めての経験でしたので当初は不安でしたが音の出し方、両手の動かし方等、一通り説明すると「僕から」「私から」と積極的に、私たちの説明を理解し一生懸命楽譜と睨めっこしながら、左手で鍵盤を押さえ、右手で弦を弾くという動作に初めは少し戸惑った様子でしたが、今はピアノや弦楽器などに触れる機会も多く児童達の音感の素晴らしさに指導にも熱が入りました。

8台の大正琴で8グループを作り、6名から7名くらいで課題曲2曲を練習して3校時目の発表演奏ではハイハイと、先を争って前に出て8人リズム合わせて引いてくれました。子どもたちの音感のよさ、理解度の速さ、そして積極性には感動と驚きで元気を頂きました。

6年生ともなれば、この日の授業は記憶として少しは残るでしょう。何時かこの日手に触れた大正琴をひと時でも思い出していただければ、うれしいなあと思った一日でした。



詩吟講座に参加して

美工12-文 加来米子



文化講座授業の一環として、詩吟講座を小畑章、加来米子2名で参加させていただきました。

今年は3校時、4校時の90分を担当することになりました。全体5クラスの前で紹介されました。新しいことに挑戦しようという子どもが現れ、児童のきらきら輝く目を見て勇気を頂きました。詩吟グループの40人と教室に入り講座の始まりです。

「詩吟とは？」との問いに知らない人が殆どです。まず基本練習です。

ストレスを溜めないためにお腹から大きな声を出すことから始めました。一斉にはじめ15秒続くかな？

「あ————」最初は続かなかった人も1回目、2回目、3回目と発声を練習しているうちに大きな声も出てくるのを感じ嬉しい気持ちになりました。発声がうまく出来たら基本練習終了です。次は実技練習です。

漢詩は小学校では習っていないと聞いていたので、今年は小学校教材として習ったことのある「俳句」と「短歌」を教材にしました。

日本で一番短い詩の俳句「春景」の吟詠練習です。プリントの楽譜を基に一節ずつ2~3回繰り返し練習すると、キチンと音もとれてうまく吟じられるのです。音感がいいですね。

「菜の花や 月は東に 日は西に」最後まで音程をとりながらの練習もでき、折角練習したので「おさらいに自分でやってみたい人居ますか？」の問いにやってくれるかなの心配も少しありましたが、想像以上に多くの児童が手を挙げてくれました。時間の関係で一人づつはできず合吟して貰い

(次のページに続く)

(前ページから続く)

ました。あの黄色い菜の花畑を思い描きながら大きな可愛い吟声が朗々と響き渡り、聞き入りました。頼もしい！素晴らしい！吟声に思わず手を叩いてしまいました。残り時間も少なくなり短歌の「白鳥は」漢詩の「不識庵機山を撃つ凶に題す」を吟じ紹介して90分の講座を終了しました。

挨拶の後、吟じながら教室へ行く児童や、インターネットで調べた漢詩や詩吟についての児童との会話も弾み、楽しい2時間に元気を頂き有難うございました。



生け花を通じ子供達とのふれあい
食文10-文 上川道子

一日中の雨でしたが、チビッコ達と会えることを楽しみにしていましたので、心は晴れやかで「長坂小学校生け花講座」に参加しました。今年で3回目年毎に参加者、特に男の子の参加が多くなり活発で、質問も多く出て私達も教わることがあり勉強になりました。

最初に生け花のルーツ、日本の生け花の歴史(池坊)と日本の歴史が重なり合い、写真等で説明しました。興味を持ち生け花と日本の風土、季節のかかわりに耳を傾けてくれました。いよいよ実習、花を切っても指



を切らないでね、笑いが出てアツと思う間に時間が過ぎお花が残ってい

たので、再挑戦したい方が居ますかと声を掛けたところ、ハイ、ハイと声が多く、ジャンケンポンで3グループが花を生けて、直接できなかった児童達が、輪になり生けるのを眺め、時間超過で私達も有意義な一日で雨なんか忘れて気持ち良く帰路に着きました。



伝統文化講座を受け持って
音文1-文 亀田 俊彦

伝統文化講座の一環の中で、長坂小学校の6年生の希望児童の約40名を対象に三味線の講座を受け持ちました。この講座が開かれる際にいつも感じることは、日本の楽器にもかかわらず、この三味線が日ごろの生活の中から余りにもかけ離れているということです。



今回も、参加児童の殆どが、この場で初めて珍しい物を見て、手に触れるという様子です。それだけに三味線の構造の説明や、その音色に非常に興味深く聞き入っている様子が印象的でした。講座の中で順番に一人づつ三味線を手にして「さくらさくら弥生の空は」の一節のメロディを奏でて貰いましたが、メロディや、音の良し悪しは別として、初めて三味線を自分の手にして、音を出すことができたという喜びと満足感を味わったひと時だったと思います。

最後に三味線の伴奏で「こきりこ節」をみんなで合唱して短い時間でしたが今回の有意義な講座を結びました。

今後も、三味線に限らず、邦楽器に触れる機会を数多く作っていただきたいものです。



特別寄稿

理科学習支援奮闘記

生環-14 東本孝次

近年小学生の学力低下を嘆く向きは多いようであるが、とりわけ理科についてはその傾向が顕著だそうだ。そこで神戸市教委では理科授業の手助けをしてくれる人材を広く求め、今年度に入って、サイエンスアシスタントとして実際の授業に投入しはじめた。たまたま私は乞われて、某小学校に2学期から行きだした。その活動の中身は随分多岐にわたっており、5年生の校外学習で神戸製鋼所灘浜サイエンススクエアへ同行、4年生と明石天文科学館見学、6年生と希塩酸でアルミニウムを溶かす実験のサポートなど、さらに先日はもち米の稲刈作業に全校生徒と汗を流した。同校は各学年いずれも1学級しかないこぢんまりした小学校で、昔の山奥の分校さながらだ。午前の4校時を使って学年をうまく組合せ、順番に説明のうえ作業という具合に勤労を実体験させていた。講師は近所の農家の人で、稲作などの農作業について子供にも判るよう説明し理解させていたのには感心した。自然に接する機会が神戸市で一番多く、こういう授業には最も恵まれた環境にある小学校だと校長が自負しておられた。

国際部会

国際部会長 土井昭政(国-10)

兵庫県国際交流協会でのスタディツアーについて、同協会のブログに次のように掲載されました。



7月5日(木)神戸市シルバーカレッジ内NPO法人グループ“わ”さんが見学に来られました。午後1時半からひょうご国際プラザの交流ギャラリーと国際情報センター(インターネット図書資料コーナー)をご案内した後、HAT神戸内の国際機関について、30分ほど説明しました。皆さん大変熱心に聞いていただき、留学生と交流したいという思いから国際交流会館などについて質問をされていました。

JICA兵庫国際センターからも活動について説明していただきました。発表の後の質疑応答で、ODA(政府開発援助)のあり方について質問があり、核開発を行うような国に援助するのはいいのか等の意見が印象的でした。最後は、人と防災未来センターを見学し、スタディツアーは終了しました。(国際交流協会・大谷)

HAT神戸スタディツアーに参加して

国11-国 加藤寿子

7月、梅雨の晴れ間の日、国際部会が企画した親睦と学習を兼ねたHAT神戸スタディツアーに参加した。見学は、こくさいこうりゅうせんたー、JICA、防災未来センターであった。私は近くに住みながら、HAT神戸の美術館以外の建物の中に入ったことが無く、関心は持っていても機会が無いままだったので、とても興味があった。

国際交流プラザで集合し、国際交流協会広報課の女性職員が案内して下さった。まず、HAT神戸とは、Happy Active Townの頭文字との説明。な～るほど。

国際交流プラザ情報室には外国の方が勉強し易い資料や図書が沢山置いてあり、私たちでも登録すると利用できるとの事だった。

JICAでは、まずはじめに、部屋でパワーポイントを使って、またクイズを交えてJICAの活動内容の説明があり、とても解りやすかった。



JICA学習室で



国際協力会館 NICE 展示室で

皆興味しんしんで質問も続出。その後、資料室でやはりクイズを解きながら見学。これは注意深く説明を読んだりするので、普通に見学するよりは勉強になったと思う。正解者には記念品まで頂いた。

人と防災未来センターでは、あの阪神淡路大震災の経験と教訓を後世に伝えるため、様々の資料が展示してあった。4階では震災当日の各地のあの瞬間を、大画面と大音響で再現。ものすごい迫力で怖かった。本当に、思わず目を伏せる。次のコーナーは当時の瓦礫だらけの町を再現、思い出しながら歩いた。その次の部屋では一人の女性を通じて、震災から復興するまで様子を追った映像が上映された。生々しい記憶がよみがえり、涙が出た。当時を思い出して涙ぐむ人も沢山居た。また別の部屋では、マグニチュードと震度の違い、マンションの免震構造とは、などなど・約3時間の見学だったが知らない事ばかりで私にはとても興味深く有意義なひと時だった。知らない人には是非見学をお勧めする。

ボランティア活動に伴うケガ等事故の連絡について

副理事長 上田 市夫

わは、会員の皆さんが部会・区会・本部等で行う行事のボランティア活動をされる中で、ケガ等の事故に遭遇された場合に備えてNPO活動総合保険に加入しております。万が一、ボランティア活動中に不慮のケガをされた場合には傷害保険の給付対象になります。また、ボランティア活動の中で他人の身体や財物等に損害を与えたことにより賠償責任を負うことになった場合には、賠償責任保険でカバーされます。わの活動に、マイカーを利用して自損事故が起きても現在の保険ではカバーされませんので注意してください。

保険金の給付対象になるのは、いづれの場合も「わの活動の中で生じた事故」が要件です。

したがって わ 以外の他団体が主催するボランティア活動等に個人的に参加して事故に遭遇した場合は、わの会員であっても、傷害・賠償責任ともに、わの保険対象にはなりません。事故に遭われた場合には、保険会社指定の「事故報告書」を提出していただくことになります。万一活動中にケガなどの事故に遭遇された場合には、早急にわ本部の保険担当にご連絡ください。保険金請求の手続きをご案内します。

詳しいことは、わ本部の保険担当:上田 (078-743-8101)あてお尋ねください。

環境部会

知的・身体障害者施設

「いかり共同作業所」支援活動
ケナフの会 生6 佐藤 昭三、
生6 森 佳代子

社会福祉法人「いかり共同作業所」は知的・身体障害者に働く喜び、自立をサポ-トする共同作業施設として平成13年設立され、現在約25名の障害者が在籍し、2・3名の職員と地域ボランティア・障害者家族等の支援により、授産活動(牛乳パック利用のはがき・名刺の紙漉き、押し花作り、アクリルたわし・竹炭グッズ作り等)、地域活動(公園・マンション掃除、アルミ缶回収、交流会)等を行っている。グループわに平成16年6月いかり共同作業所から紙漉きの指導・支援の依頼があった。グループわの中でケナフの紙漉き活動を行っている「ケナフの会」に、わ本部から支援依頼があり、ケナフの会の7名(男子2名、女子5名)が支援を始め、3年余を経過している。最初の2年間は紙漉き支援(技術指導と牛乳パックよりのパルプ作り等)を月2回行って来た。紙漉きが軌道に乗り、又、いかりより押し花作



紙漉き支援状況

りも手伝って欲しいとの要望があり、1年前からは月1回のペースで紙漉きと押し花作り支援を隔月毎に行っている。去る8月「社会福祉法人いかり後援会」総会があり、我々も招待され、出席した。

後援会長・関係者よりグループわのボランティア活動に深い感謝と評価があった。いかり共同作業所は、現在、地域の協力により4階建ての新施設の建設が来年4月完成を目指して進められている。完成すると、障害者を約40名受け入れられるようになる。グループわに継続的な支援依頼があります。我々は6・7期生で、体力的にもきつくなってきています。新しい方のご参加を是非お願い致します。
以上

文化部会

KSC 男声合唱団演奏会

実行委員長 音-8 小阪 芳弘

私共 KSC 男声合唱団はお陰さまで創立7周年を迎えました。日頃の練習の成果を、神戸市シルバ-カレッジの各種の催しで発表し、市内の各種の高齢者や医療施設での友愛慰問演奏、また他の音楽団体との合同演奏会の場で広く皆様に聴いて頂いてまいりました。

この度、お世話になりご支援を頂いた皆様方に感謝し、下記のとおり第2回演奏会を開催することになりました。

目下、私共は団員一同この演奏会に向けて全力で練習と準備に励んでおります。

ご多忙とは存じますが、皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。

日時 平成20年2月23日(土)

開場 13:30 開演 14:00

場所 東灘区民センター

「うはらホール」

(JR住吉駅 南東すぐ)

入場は無料ですが、入場整理券が必要で

なお、お問い合わせその他は下記までお願い申し上げます

在間義博(団代表)

Tel/Fax 078-791-6048

E-mail: icg15942 @ nifty.com

会員のアンケート調査の集計結果について

副理事長 上田 市夫

グループわは昨年10月、全会員を対象にボランティア活動に関するアンケート調査を(財)神戸都市問題研究所と連携して行いました。その概要については、さきの「情報ぎやらりー第37号」(H19年1月発行)でご紹介しましたが、さきごろ同研究所によって「ボランティア活動に関する報告書」として纏められ、内容は、調査データの集計のほか、貴重な提案も含まれております。

このアンケートについては、昨年7月発行の情報ぎやらりー第35号に調査票を同封(返信用封筒つき)して回答をお願いしたのですが、全会員1,050名(当時)のうちの531名から回答(回答率50.5%)をいただきました。この低い回答率は、ボランティア活動に携わるわ会員の実態と意識を調査してボランティアの問題点を探ろうとする、アンケート調査の趣旨を充分にご理解いただけなかった結果ではないかと思っております。この調査結果は、今後のわの運営の参考にさせていただきます。

この“わ”会員対象アンケート「ボランティア活動に関する報告書」について、各部会、区会等で資料としてご覧になりたい方はわ本部にお申出ください。



10周年記念式典で合唱

北区会

来て来て「花山梅林会」

国 9 徳原尚世



学校敷地内外に作られていた里山が「人手や資金不足」から、今やあちこちで整備されないまま、荒れるに任せた状態にあります。

北区花山小学校裏山梅林もその一例で折角、色とりどりの花が咲きながら、地域住民にも余り知られないまま、荒れていく一方の状態でした。その窮状を私たち「わ」の会員が情報を入手して、花山小学校他関係部署と協議を重ね、今年の4月より花山梅林会を発足させ、現在に至っています。

現在、会員数は35名となり、活動参加実績人数は毎回10～17名/日で、活動日は月2回(連日)計画で実施しています。作業スケジュールが追いつかない時は予備活動日も生かして成果を挙げています。活動時間は毎回9時～昼前までの作業計画で実施しています。

剪定、下草刈作業のみならず、伸び放題だった雑木が大木になっていて、環境部会の皆様の支援で、なんとか伐採作業メニューもこなしています。今年の夏場では「皆さん大汗をかいての頑張り」でした。



下草刈作業



剪定

これからもまだまだ伸びる雑草やツル草と闘いつつ、梅林計画予定敷地もひろげ、県から活動助成金も交付認可され、計画通り「梅の苗木の植林」を目指し、見事な梅林にして行こうと構想を練っています。

わ”の活動として、会員が本活動にどんどん参画して頂けることを期待しています。雑木林斜面での作業も多く、多少安全面で心配な場所もありますが、雑木林内では「わらび、あけび、筍など」が採れ、今年採れた梅の実で4年生の児童が作ってくれた「梅

ジュース」(少し発酵していて皆さんいい気持ちになったかな)など楽しみもあり、作業には無理のないよう安全に心がけて活動をしています。

目に見えて近傍の通学路が整備され、梅林らしい様相を呈し、樹木伐採によって「校庭で栽培中の稲」が日当たりも良くなり嬉しそう。来年には咲き競う梅の木の下で花見の会をするのを楽しみにしています。

是非 こんな梅林に来て、見てください。

花山梅林会スタッフより



下草刈作業

グループ紹介 『森の仲間』

生11-環 菅田忠志

みなさん こんにちは 今年7月に登録したばかりの『森の仲間』です。我々のグループは、森歩き・山歩き好きのメンバーで構成する小グループですが、望みはでっかく、市内・県内のシニア世代に『森歩きの楽しさ』を呼びかけ、森の恵み、とりわけ『森林浴を楽しむ元気な仲間の輪が広がっていくことを目指して』活動を続けていきます。

活動範囲は、神戸市内の六甲山系や丹生山系を中心とした森林浴コースをはじめ、阪神・播磨・丹波・但馬地域の素晴らしい森林浴コースを歩きながら、小鳥のさえずりや小川のせせらぎ、新緑や紅葉の季節に出合う素晴らしい森の景観から、心を癒され、健康なからだへの新陳代謝をもらっています。また、ときには“森の清掃活動や整備作業・植樹活動”にも積極的に参加し、森の恵みへお返しすることも大切なこととの



七種の滝への道

思いで活動を続けていきます。

なお、我々が今までに踏査してきた森林浴コースを、ガイドブック『シルバーが選んだ兵庫森林浴コース30』として、手作り冊子にまとめております。イベント企画などでの実地啓蒙活動に加え、この冊子を通じて多くのシルバー世代の方がそれぞれ仲間を作られ、森林浴を楽しみ、元気なシルバーの輪が広がっていけば幸いです。

この手作り冊子は、グループわの事務局にも置き、材料費実費100円での頒布を行っております。関心のある方は立寄ってみてください。

お知らせ

ご協力有難うございました。

新潟中越沖地震救援募金

- 8/5 西区会員による募金活動
および会員からの寄付金
58,950 円
 - 9/1 10周年式典会場での募金活動
20,888 円
 - 9/2 10周年記念地域交流わいわい
ストリートでの募金活動
4,397 円
 - 10周年記念グループわ 会員全員
からの寄付金(約1,170人)
115,765 円
- 合計 200,000 円

皆さまの浄財を神戸市社会福祉協議会を通じて被災地に届けました。



永年勤続表彰

わ設立当初から事務局の総務担当で歴代委員長・理事長の良きアシスタントとしてグループを育てて来られたお二人に感謝状が贈られました。

飯井冴子さん(向かって右)
橋野美子さん(向かって左)



ご覧になっていますか? グループわのホームページを!

ホームページ(HP)は、インターネットによるグループわの活動を広報する大事な役割をしています。情報ギャラリーでは、情報提供の迅速性を欠き、ボランティア募集にも時機を失することが多いため HP を有効に機能させ活用しようとしています。ぜひ関心を持って HP を活用してください。



須磨一ノ谷プラザイベント案内

秋 森林浴を楽しもう

と き : 2007年11月4日(日) 雨天中止
コース : 須磨浦公園 ~ 須磨鉢伏山 ~ 妙見堂 ~ 一ノ谷プラザ
集合場所・時間 : 山陽電鉄須磨浦公園駅 午前10時
参加費 : 無料
持ち物 : 弁当、水筒、雨具、おやつ少々
主 催 : NPO法人社会還元センターグループわ
後 援 : 須磨区
後 援 : (財)長寿社会開発センター



須磨イルいきいき健やかフェスタ

と き : 2007年11月17日(土) 午後1時~3時
場 所 : 須磨一ノ谷プラザ
内 容 : 保健師による健康体操
お話「きちんと食べる食生活」
昔あそび
参加費 : 無料
主 催 : NPO法人社会還元センターグループわ
共 催 : 須磨区
後 援 : (財)長寿社会開発センター



申込み:参加者の名前、住所、電話番号を書いてFAXでグループわまで FAX 078-743-3830

ボランティアを募集

依頼者 さわらび学園

知的障害者入所施設で、障害程度は、重度から軽度までの方で、5歳から21歳までが利用しており、児童数は60名です。

依頼内容

そろばんやピアノを教えてください!!

重度障害者2名に学習支援(簡単な算数)をしてください。

ボランティアできる方は

グループわ事務局までご連絡ください。 TEL 743-8101 橋野

編集後記

二年がかりで企画した設立10周年記念式典も予想を上回る参加者で大盛会の内に無事終了してホッとしている。これは会員の皆さんが総力を挙げて成功させようと、パレードやパフォーマンスに知恵を絞った結果だと思います。

情報誌のあり方についていろいろご指摘もあり、休眠状態にあった広報部の活動に喝を入れ、これから投稿依頼、現地取材を積極的に進め、読み応えのある情報誌・HPにしていく所存ですので、建設的なご意見を編集部の方にご連絡ください。(M.H)